

【トップインタビュー】 ◇町民の支えに感謝し次世代に町つなぐ＝桑原悠・新潟県津南町長

20/06/29 08:30 NG023

新潟県津南町の桑原悠町長（くわばら・はるか＝33）は2年前の6月、全国最年少の31歳で町長に当選し話題を集めた。「町民の方々の見えない支えがあって、町政を回している」と奮闘の日々を表現。その上で、任期後半に向け「新型コロナウイルスとの共存期をどう乗り切り、次世代に町を残すか。地方回帰を期待し、リモートワークの企業誘致や創業支援に取り組みたい」と意気込みを語った。

就任後、町民による「平場の議論」を求め、20～70代の有志による「津南未来会議」を立ち上げた。この2年であらゆる町政課題で「論点を整理し、取り組めることは取り組んできた」。

主要産業の農業では、初めて県との人事交流で迎えた農政の専門人材を核に、農業法人の設立やスマート農業の普及に着手。県内初となるコメの食味コンクール（米・食味鑑定士協会主催）の2022年秋の誘致も決定した。観光は、宿泊のみならずあらゆる業種への波及効果をにらみ、観光地域づくり法人（津南版DMO）を21年度に設立する方針。

そして、コロナ後の地方回帰の誘導策にもなり得るものとして力を注いでいるのが、教育・保育だ。保育園は、需給ギャップが大きな現行6カ所を3カ所体制に再編し、就学前から英語に触れてもらうなど津南型の保育を進める計画。うち、1カ所は子育て支援センター併設の大規模園として新設することとし、今年度、実施設計に着手している。英語によるキャンプで好業績を上げている地元の事業者のノウハウを取り入れ、大自然に触れながら「五感で遊び込む保育」を目指すという。町立小中学校も、今年度から同事業者との連携で英語教育を充実させているほか、町内にある県立津南中等教育学校とも連携を強化する意向。町長は「津南のフィールドを生かした国際教育をPRし、移住・定住に力を入れていくというのが、任期後半の大きな仕事」と決意を語る。

一方で、就任からしばらくは、議会对応で苦勞する場面も少なくなかった。「年が若いということもあり、偉い人には言えないようなご自分の考えをストレートに伝えてくださることが多く、正面から受け止めるのはかなり大変だった」。昨年6月議会では、答弁態度を理由とした町長辞職勧告決議案の採択を求める請願が委員会で審議され、「さすがに心が折れた」という。

そんな桑原町長が気持ちを落ち着かせる方法としているのが、昔町役場に勤めていたような70～80代のお年寄りたちとの茶飲み話だ。「お茶飲みに来てくださいと町長室にお呼びする。私が深く言わなくても、本質的なことを分かってアドバイスしてくださり、気持ちが救われる」

最近では各方面からのストレートな批判も、「観音様のようにどっしり落ち着いて聞いて、町政の肥やしにしている。ストレートに言われるのが、逆に自分の良さだと思って、課題解決に生かしたい」と前向きに捉えている。町長をやっていて一番うれしかった瞬間を問うと、「これは町民のためになると思う決定をしたとき、物事が大きく動くことを実感するときって、ぞくっとしますね」と政治家らしい答えが返ってきた。

〔横顔〕早稲田大卒、東京大学公共政策大学院修了。津南町議（当選2回）。18年6月の町長



桑原悠・新潟県
津南町長

選で初当選。息抜きは、5歳と3歳の子ともと会話すること。

〔町の自慢〕コメあり、畑作あり、畜産あり、花卉（かき）ありとバランスの良い農業構造。花卉は特にユリ（写真手前）が国内最高級ブランドとして高い評価を受けている。

（新潟支局・吉田忠展）（了）（2020年6月29日配信）

インタビュー一覧は[こちら](#)

関連情報

人物 桑原悠氏のプロフィール

※本印刷物は時事通信社 iJAMPサービスから印刷されました。

Copyright JIJI PRESS Ltd. All Rights Reserved.